

たちがさまざまなパフォーマンスを繰り広げた

領域をカバー連携で多様な

科目」、データサイエン

ーリアを見据えてカリキュ

授業は演習中心の

げる、実践力を強化する

視野を拡

SCIENCE

野横断型カリキュラムと

無・内容に応じて、

地球環境学研究科 アカデミック教員

データサイエンス」をテ

理工学研究科 アカデミック教員

年ぶりに対面開催されたソフィア祭で、

2022年(令和4年)11月14日発行 第465号

所長の根本かおる氏か

冒頭、国連広報センタ

編集・発行

上智学院総務局広報グル

東京都千代田区紀尾井町7-1 www.sophia.ac.jp

[Twitter]@SophiaUniv_JP

世界と私たちの未来を考える」をコンセプトに、全9件の多彩なプログラムが展開された。

「第18回上智大学国連W e e k s

O c t o b e r

2022」を開催し、

「国連の活動を通じて

10月11日から26日まで、

題:国連と日本の役割 軍縮の必要性や、国際社 際平和の実現に向けた 軍拡時代の軍縮への課

論が交わされた。グロー 続き、パネルセッション 会の役割について考える ンンポジウムを開催。3 し質疑応答では活発な議 八の専門家による発表に ル・スタディーズ研究

に国連の役割を議論

国連事務総長から寄せら ら、希望と信念の力に思 アントニオ・グテーレス れたビデオメッセージも 続いて、元軍縮会議日

を体系的に解説した。 使の佐野利男氏が登壇 本政府代表部特命全権大 する条約の取り組みなど 核兵器の拡散を防止

果たすことが不可欠だ」 を防止するとともに、核 兵器国が核軍縮の約束を 新たな核保有国の出現

性を指摘した。 元国連事 を訴えるとともに、

|務次長(軍縮担当)の阿 力や危険性を説明。さら 爆の実相を世界に伝え、 日本の役割について「被 部信泰氏は核兵器の破壊 唯一の被爆国である

べきだ」と述べた。 核兵器禁止条約の支持国 と反対国の橋渡し役とし 国際的役割を果たす

の動向について解説し ぐる国連や加盟国の直近

た。東西冷戦の対立構造 国連事務局軍縮

|る国際情勢の場におい れ

要だ」と総括した。 体制を守っていくかが重 に触れつつ、「日米を中 質疑応答では、視聴者

の高さがうかがえた。 った国際秩序維持の重要 本の国際的役割への関心 性や、それにまつわる日 から多くの質問が寄せら 戦禍で浮き彫りにな

まな立場や意見が交錯す の挨拶を行い、「さまざ

務めた。 渉を担当、

氏、元アフガニスタン担

クトの必要性を訴えた。

|るべき行動と、国際社会|る重要性が共有された。

めくくった。 も喫緊の課題。今後も引 き続き平和構築への道を にとっても我々にとって かに進めていくかは国連 ■アフガニスタン人道危 模索していきたい」と締 中長期的な軍縮をい

クター、 グロー |係者を中心に約150人 の東大作教授が企画や交 が世界中から参加した。 生、大学生、 タン関連の専門家を招い インで開催され、 てシンポジウムがオンラ 10月12日、アフガニス バル教育センター 国際機関関

平和研究所代表のナディ

ア・ナイーム氏、国連食

地の人々が自らの手で安

は低いことを指摘

には有用だが持続可能性

あると強調した。

フガン現地代表のリチャ 糧農業機関(FAO)

持するための民間セクタ 定的な生産システムを維

による長期型プロジェ

ド・トレンチャー

挨拶に続いて、

佐久間勤理事長の冒頭

当日の進行を

ある「研究科等連係課 が協働して教育を行う点 ことで、経済学、経営 だ。 3研究科が連携する 務経験を持つ実務家教員 ジネスの現場で豊富な実 員と、特にデータ関連ビ する3研究科との兼務教 デミックな観点から指導 既存の経済 |ドを持つ学生を受け入れ まざまなバックグラウン る非常勤教員が担当する 広く学ぶ「選択科目」、経 らの直接進学者など、さ 企業でのインターンシッ 科目に加え、2年次には 済学・理工学研究科の専 プ科目も用意している。 また、社会人、学部か は修士 エンス)。2023年4 限を中心に開講する。 目は夕方以降の5・6時 員や非常勤教員の担当科 配置するほか、実務家教 開講科目をバランスよく 降を中心に開講。 がら学べるよう、 ぶことが可能だ。 ラムを自ら組み立てて学 収容定員は50人。 学位 (応用データサイ

方向に進む道を模索する

|来課主幹の篠崎道裕氏

は、SDG s未来都市と

必要があると話した。

次に、国際連合大学サ

紹介した。

|題などに取り組む事例を して人口減少や温暖化問 グラム

てれを実社会で応用・展

、学術的な専門知識と

慢プロフェッショナル **貯する実践力を併せ持つ**

がの育成を目指す

本プログラムは分野横

るため、

データサイエン

スの基礎から実社会への

応用・展開までをカバー

する多様な科目を配置。

ータサイエンス学位プロ イエンスを学ぶ「応用デ

2023年4月、

応用データサイエンス学位プログラム・修士課程

大学院3研究科と実務家教員が連携

民間セ 家が活発な議論を展開

アフガニスタンの専門

ル学部教授がコメ

次にトレンチャード氏

が行うべき持続可能な支

た。

ナイーム氏は、

スタン

計画(WFP)をはじめ ターとして参加し とする食糧支援は短期的 説。WFP国連世界食糧 で金融システム崩壊や飢 崩壊後のアフガニ

こされた経緯について解

一ガスティン総合グローバ 壇。本学からは上智学院 の山本忠通氏の3人が登 。昼夜の た。地球環境学研究科非 シンポジウムが開催され ネットワーク・ジ DGsのインターリンケ | 拶に続いて、鈴木政史地 およびフリーキャスター ローバル・コンパクト・ カルなイニシアティブ ージ:グローバル・ロー | 球環境学研究科教授が基 脱炭素への取り組みとS の根本美緒氏がファシリ 常勤講師で、 材育成センターおよびグ ■パリ協定達成に (GCZJ) との共催で 10月18日、国際協力人 気象予報士



さまざまな分野の登壇者の皆さん

究所(UNU—IAS) ステイナビリティ高等研

ダとパリ協定の両立や、 複数の問題を同時に解決 していくエネルギーシス アムの模索など、 他国の | 2面に続く)

餓といった危機が引き起 | 栄養状態が犠牲になって 旧政権 | 洪水後の現地の様子につ |復のためにタリバンが取 |で、国際社会での信頼回 の問題点を指摘したうえ |タリバンと国際社会双方 一動、持続可能な農業技術 飢餓状況下で特に女性の いて写真とともに報告。 投入などが喫緊の課題で 支援、十分な公的資金の いる非都市部での啓蒙活 が、2022年の地震、 続いて山本氏が登壇。 |党派の「人口議連」にで 大の支援だと強調し、超とが日本としてできる最 説明した。 きたアフガンプロジェク アフガン全土に広げるこ |継続している灌漑事業を 答が行われ、アフガンの 援に関わっている現状を 〇「ペシャワール会」が 援について解説した。 トチームの顧問として支 「自立と安定」を支援す 東教授は、日本のNG その後、活発な質疑応

|題に対する国際的な流れ ドオフの2つが大きく関 係すると述べ、どちらか 題にはシナジーとトレー 脱炭素化とSDG sの課 意義を解説した。そして、 調講演を行った。環境問 一方に取り組むのではな 森下哲朗グローバル化 包括的に両者がよい | 秋山佳子氏は、物流業界 組みを解説した。また、 における脱炭素への取り 輸株式会社執行役員サス り組みを紹介。ヤマト運 りの視点から実践した取 | て脱炭素・防災・街づく | 業部長である村嶋陽一氏 事例を交えて説明した。 長崎県壱岐市SDGs未 が、民間企業の事例とし 会社執行役員防災環境事 テナビリテイ推進部長の 続いて、国際航業株式

説。2030年アジェン 明生氏が、グローバルな るために必要なことを解 視点から脱炭素を実現す プログラムヘッドの竹本 |鈴木教授を加え、パネル 挨拶で締めくくった。 後、GCNJ代表理事で ディスカッションが行わ ある有馬利男氏の閉会の れた。活発な意見交換の (国連Weeks記事は 最後は4人の登壇者に